



◆八月の歳時記◆

先人たちの戒めに学ぶ

『自然災害伝承碑』

日本列島は、その複雑な地形から四季折々の美しい絶景が数多くあり、それが魅力でもある反面、自然の脅威と隣り合わせで生きてきた過酷な歴史がありました。先月の熱海市で起こった土石流や熊本の水害など記憶に新しいところですが、実は私たちの先祖が、その被害を後世に伝えるべく文字を刻み戒めとして残してくれた石碑が、各地に存在しているのはご存知でしょうか。当時の悲惨な状況や、「津波はここまで来る！ここから下には家を建てるな！」など石に記された先人たちの思いは強いメッセージ性をもって迫ってきます。私たちが住む尼崎市にも近い将来、東南海地震が来ると言われていますが、167年前、まさに南海地震を経験した先人たちの言葉をあらためて胸に刻むべく、ここにご紹介したいと思います。

（大阪市大正区の大正橋の橋のたもとに安政南海地震（1854）の翌年に建てられた「大地震両川口津浪記」の石碑より）

『地震で家は崩れ出火も生じた。本震から2時間を経過した日暮れ、大津波が押し寄せ、安治川、木津川に山のような大波が入ってきた。（河川津浪と思われれる）避難のため大勢の人が乗り込んだ船が上流に押し流され橋にあたって転覆。橋は落ち多くの船が折り重なり多くの死者が出た。今より148年前の大地震の節も小舟に乗り津浪で多くの溺死者が出たのに、これを言い伝える人が少なくなり、むざむざと同じように船に乗って多くの死者を出す事になってしまった。将来、また同じように地震が起きるかもしれない。大地震の時はいつでも津波が起きる事を知っておき、決して船に乗ってはいけない。火の用心肝要なり。』そして最後には、『この石碑の意義を理解してくれる人がいたら、文字がいつまでも人々が読みやすいように、どうぞ毎年墨を入れて欲しい。』と結んでいます。無念さと、後世に同じ過ちを起こさせまいとする当時の人々の強い思いが伝わってきます。（現在、この石碑の文字は、建立者の子孫が毎年墨を入れ続けているそうです。）

しかし今、不吉だ、資産価値が下がるなどと勝手に移動させられたりする石碑もある中、一昨年の西日本豪雨で甚大な被害を出した広島において、被災地にあった石碑が注目され、これを機に国土交通省が各地の「自然災害伝承碑」の情報をネットで配信しています。



三冠達成！「JR尼崎」

またまたの快挙です！「穴場だと思いう街」1位に三年連続「JR尼崎」が選ばれました。このランキングは関西の20歳～49歳の男女を対象に「交通・生活利便性が高く家賃や物価が割安なイメージがある街」を集計したものです。残念ながら「住みたい街」には未だランキングされていません。泣 しかし最近、JR尼崎がさらに進化していくのではと確信できる？動向がみられるのです。

6月末、JR尼崎駅前のショッピングモールに、高級スーパーで有名な「成城石井」が、「住みたい街」ランキング常連組の“芦屋”“夙川”“西宮北口”などに続き出店されました。また「ABCマート」も増床と、かなり積極的なリニューアルが行われました。全国に展開するこれらの店舗が、しっかりしたマーケティングのもと出店に至ったのは言うまでもなく、JR尼崎の将来性や住民の嗜好などを精査した結果と推察されます。駅構内にある高級スーパー「パントリー」もしっかり根付いた感があり下町のイメージが先行する尼崎ですが、高級志向のニーズがJR尼崎には確かにある事がわかります。おしゃれと下町情緒が混在した多様性のある街ってなかなかお目にかかれませんか？



頑張れ！ヤマボウシ

皆さま、お気づきでしょうか？パストラル尼崎のエントランス左脇に、昨年末、新しい樹木が1本植樹されたのを・・・この場所は北向きな上、建物のひさしがせり出しているため殆ど陽が当たらず、樹木からすれば、ここはもう修行の場でしかありません。汗 その過酷な場所に、今回選ばれた木は、その名も『ヤマボウシ』。植木屋さん“イチオシ”の強い樹木『ヤマちゃん』は期待を一身に背負いパストラルのシンボルツリーとしてデビュー。しかし越冬する『ヤマちゃん』の姿は、陽の当たらない北向きの場所で息も絶え絶えの様子で、その姿は修行僧そのもの。汗 それでもか細い身体ながら『ヤマちゃん』は何とか春を迎えます。けれど青葉の季節になっても濃い緑の葉はお世辞にも美しいとは言えず『ヤマちゃん』への期待はいつしか諦めが変わっていきました。そして6月・・・そんな『ヤマちゃん』に変化が訪れます。白い花がポツポツと咲き始めたのです。木はいつしか光を求めるように前傾姿勢になり、花も光の当たる片側だけ咲かせています。凶鑑でみるより少し貧相だけど、ここで花を付けてくれた事が何より嬉しく、思わずこう声援を送るのでした。「頑張れヤマちゃん！」

